

2022年度 保健医療技術学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
<p>1) 教育</p> <p>①原則として面接授業を実施する。感染予防策を遵守・励行し、最大の教育効果を維持する。</p> <p>②学生による授業アンケートの平均点4.30(前年度4.22)、学修状況調査に基づく授業満足度90%(前年度87%)、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格者の相乗平均92%(前年度88.9%、前々年度92.2%)を目標値に設定する。</p> <p>③4学科で新旧カリキュラムの移行が進行する。科目の再編などに対応する。</p> <p>④学位授与方針(ディプロマポリシー)を、客観的な評価が可能な内容に改定する。</p> <p>⑤4学科で国家試験対策を実行する。</p> <p>⑥臨床検査学科で学年横断的グループ学習を推進する。</p> <p>⑦4学科合同科目「チーム医療論Ⅰ」の運営方法を見直す。</p>	<p>1) 教育 前期後期ともに感染予防策を遵守・励行し、対面授業を原則として実施した。感染者・濃厚接触者に対して不利益のないように配慮した。授業アンケートを踏まえた教員の授業改善方針を学生に公開した。</p> <p>DP到達度チェックを実施した(実施率93.2%)。学部FDで「ディプロマ・ポリシー」とその到達度評価:整合性の確認と学部充填指標の選定」について討論が行われた。</p> <p>各学科で国家試験対策を実行した。COVID19感染拡大に十分留意しながら対面での国試対策を実施した。</p> <p>併設校との連携で単位認定プログラム、年内入学選抜試験合格者対象の入学前教育を実施した。新入生研修を実行した。</p>	<p>実施状況(実施率)</p> <p>学生による授業アンケート実施(回収率59.5%)</p> <p>学修状況調査実施(回答率49.1%)</p> <p>学部FD実施(参加率90.5%)</p>	<p>概ね計画通りに面接授業が実施された。教育効果を狙って恩恵を有効活用したり、一部、感染状況に応じてオンライン授業切り替えて実施した。</p> <p>学生の授業アンケート(平均4.18点/5点満点、目標値4.30)は2021年度の4.22よりも下回った。</p>	<p>学生による授業アンケート:前期4.19、後期4.16、通年4.18</p> <p>授業満足度:82%</p> <p>進級・卒業率90.4%</p> <p>理学療法学科98.0%</p> <p>作業療法学科91.0%</p> <p>臨床検査学科88.6%</p> <p>看護学科86.4%</p> <p>1年 86.3%</p> <p>2年 88.5%</p> <p>3年 91.6%</p> <p>4年 97.3%</p> <p>国家試験合格率(新卒):</p> <p>理学療法士97.4%</p> <p>作業療法士100%</p> <p>臨床検査技師78.8%</p> <p>看護師100%</p> <p>保健師100%</p>	<p>原則、対面での授業を実施する。オンラインを有効に使用して、質の高い授業運営を実施する。授業感染対策を継続して学内クラスター発生を回避する。2023年5月以降、新型コロナウイルス感染症は5類へと変更になるが、引き続き様々な感染症に留意し授業を実施する。</p> <p>4学科共通で初年次から学習の質を上げ、知識の定着を図り、進級・卒業率の上昇を図る。臨床検査学科においては特に4年にわたるグループ学習を策定し、すべての学年にわたる留年の減少を図る。</p> <p>ディプロマ・ポリシーを見直し、具体的な評価が可能な内容に置き換え、それに到達する人材育成に務める。国家資格を離れたディプロマ・ポリシーの設定について議論を継続する。</p> <p>4学科合同4年必修科目のチーム医療論Ⅰに人間学部人間福祉学科ソーシャルワークコース生の履修を受け入れ、地域連携の要素を組み入れた内容にしていく。一方2023年度は、実施方法・内容を変更し実施日程を調整することで看護学科を含めた保健医療技術学部の全体での実施を実現する。</p>	
<p>2) 研究</p> <p>①研究倫理を踏まえた研究計画・実施が質的・量的に継続して増していく環境を整備する。</p> <p>②競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。</p> <p>③共同研究を促進する。</p>	<p>科研費応募に向けた支援が総合研究所を中心に行われた。教員の研究活動の評価が担当講師、特定助教、助教、准教授、教授対象に行われた。</p> <p>2022年度科研費応募32件、採択5件</p> <p>2022年度共同研究費の応募件数が11件であった。</p>	<p>概ね計画通りに実施された。</p>	<p>2022年度科研費応募32件、採択5件</p> <p>2022年度共同研究費の応募件数が11件であり研究費を得ての研究が継続されている。</p>	<p>2023年度科研費応募24件、内定1件(3月3日現在)</p>	<p>研究環境の維持・改善を図るための施策を講じる。研究時間と資金の確保、研究者同士の情報交換を課題とする。</p> <p>研究倫理の講習会を行い、人を対象とする研究活動の円滑化を図る。</p> <p>他施設との共同研究の拡充と、競争的資金の応募による研究計画の推進を図る。</p>	

2023年度 保健医療技術学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>1) 教育</p> <p>①原則として面接授業を実施する。感染予防策を遵守・励行し、最大の教育効果を維持する。</p> <p>②学生による授業アンケートの平均点4.25(前年度4.18)、学修状況調査に基づく授業満足度85%(前年度82%)、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格者の相乗平均92%(前年度92.2%、前々年度88.9%)を目標値に設定する。</p> <p>③4学科で新旧カリキュラムの移行が進行する。科目の再編などに対応する。</p> <p>④成績評価のガイドラインを作成し、評価基準の明確化をはかる。</p> <p>⑤4学科で国家試験対策を実行する。</p> <p>⑥臨床検査学科で学年横断的グループ学習を推進する。</p> <p>⑦4学科合同科目「チーム医療論Ⅰ」「多職種連携論」の運営方法を検証し継続して実施する。</p> <p>⑧進級規定の変更について検討する。</p> <p>⑨臨床検査学科、看護学科の1年生が学習するキャンパスについて、検討する。</p>
<p>2) 研究</p> <p>①研究倫理を踏まえた研究計画・実施が質的・量的に継続して増していく環境を整備する。</p> <p>②競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。</p> <p>③共同研究を促進する。</p>

2022年度 保健医療技術学部(結果)

PLAN(計画) P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	DO(実施) D:計画を実行しその効果を測定する。	CHECK(評価) C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う	ACTION(次への改善) A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
評価	実施状況(実施率)	評価理由/課題/根拠データ等	
<p>3) 運営 ①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールする。 ②退学者を減らすために、国家資格にとらわれない就労・指導の方針について検討する。 ③転学部・転学科が容易となるようなシステムを検討する。 ④教員組織を維持し、連携を推進する。 ⑤学部委員会活動の引継ぎを踏まえて、定式化できる作業行程を吟味し、整理を図る。</p>	<p>総合型選抜、学校推薦型選抜、全学統一選抜、一般Ⅰ期、一般Ⅱ期、一般Ⅲ期に加えて、Ⅰ期～Ⅲ期入試については同日に総合型選抜を追加して実施を計画した。3月に特別入試を計画した。オープンキャンパスで学生による説明を通して本学の魅力をアピールした。 専任教員の異動に応じた採用および昇任に関する人事審査を実施した。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正に伴う専任教員による臨床実習指導の増加に対応するための施策を講じた。 ①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールした。 ②退学者を減らすために、国家資格にとらわれない就労・指導の方針について検討する必要性について検討した。 ③転学部・転学科が容易となるようなシステムについては実施されなかった。 ④教員組織を維持し、連携を推進した。 ⑤学部委員会活動の引継ぎを踏まえて、定式化できる作業行程を吟味し、整理を図ることについては検討するにとどまった。</p>	<p>2023年度入学学生選抜の結果、2学科で定員数に達せず、学部としても定員数に達しなかった。受験生の心に響くメッセージを十分に届けることができなかった印象である。 ①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールしたが効果については測定できていない。 ②退学者を減らすために、国家資格にとらわれない就労・指導の方針について検討する必要性については検討したものの具体化は今後実施する。 ③転学部・転学科が容易となるようなシステムについては実施されなかった。 ④退職者による欠員については、速やかに新規採用の手続きを実施し、教員組織を維持した。 ⑤学部委員会活動についてはスリム化を含めて今後も継続して検討する。</p>	<p>多様な学生が学びを継続していく様子を、SNSを使って情報発信する。 専門職資格を活かした就労の可能性の広がり把握し、その勤務条件に合う学位・資格・スキル獲得のためのコース策定を中期的に検討し、入学定員の充足を図る。 各委員会活動の引継ぎが行われたことを確認し、その内容を学部教員全体で共有、可視化する。</p>
<p>4) 社会 ①学生、卒業生のキャリア支援を継続する。就職希望者の100パーセント内定を目指す。 ②埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)、東京都医療人材派遣に関わる活動を継続する。 ③国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。リアル留学の再開を目指すとともに、オンライン交流の利点を踏まえて継続する。 ④後援会と連携した教育を継続させる。 ⑤病院施設の実習指導者育成に協力する。</p>	<p>概ね計画通りに実施された。 ①各学科で就職支援活動が順調に行われた。 ②TJUP活動として、公開講座に学部教員が参画し、単位互換制度の科目を次年度に向けて定めた。 ③海外短期フィールドワーク(カナダ)とマレーシア国民大学(UKM)との学生交流はコロナ禍ではあったが感染拡大に十分留意しながら実施した。また、BGUヘルスフォーラムではUKMのDr.Asfarinaによる講演が対面で開催された。 ④保護者会(学科の説明とキャリア関連の説明会)および保護者面談についても対面にて実施した。11月7日～11日に対面授業の公開を実施した。 ⑤実習指導者との連携については、各学科とも臨床実習指導者会議等を実施し、情報の共有をおこなった。</p>	<p>①各学科の就職率は右記の通り ③UKMからは4名の学生を受け入れた。本学の学生との交流を深めた。 BGUヘルスフォーラムではUKMのDr.Asfarinaによる講演が対面で開催され、理学療法学科作業療法学科の3年生4年生中心に多くの学生が参加した。</p>	<p>就職内定率(今後確定) 全体 100% 理学療法学科 100% 作業療法学科 100% 臨床検査学科 100% 看護学科 100%</p> <p>キャリアセンターと連携しつつ、学科ごとの就職支援・指導を継続する。 社会連携研究所と連絡を取って、TJUPを含む地域連携活動に参加する。 保護者、後援会との連携を図るために、保護者会支援として行ってきた活動を大学・学部として2023年度以降も継承する。学生の学修状況、キャンパス・ライフの説明、キャリア支援の報告・説明、保護者面談、授業公開等の企画を実施する。 COVID-19収束状況に応じて、対面の国際交流、地域交流活動を積極的に展開する。</p>

2023年度 保健医療技術学部

PLAN(計画) P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>3) 運営 ①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールする。 ②退学者を減らすために、国家資格にとらわれない就労・指導の方針について検討する。 ③転学部・転学科が容易となるようなシステムを検討する。 ④教員組織を維持し、連携を推進する。 ⑤学部委員会活動の引継ぎを踏まえて、定式化できる作業行程を吟味し、整理を図る。</p>
<p>4) 社会 ①学生、卒業生のキャリア支援を継続する。就職希望者の100パーセント内定を目指す。 ②埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)、東京都医療人材派遣に関わる活動を継続する。 ③国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。リアル留学を活性化させる。 ④後援会と連携した教育を継続させる。 ⑤病院施設の実習指導者育成に協力する。</p>

2022年度 保健医療技術学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
<p>5) B'Vision 2024に向けての取り組み</p> <p>①国際化に対応した地球市民の育成 通常授業の中で英語の情報を付加する。</p> <p>②ストレス耐性を持った人材の育成 協同学習を推進する。</p> <p>③永久サポート大学 卒後研修に協力する。</p> <p>④教育力日本一 学生との対話を促進する。</p>	<p>①国際化に対応した地球市民の育成 現実的には通常授業の中で英語の情報を付加することは難しくほとんど実施することができなかった。</p> <p>②ストレス耐性を持った人材の育成 各学科の授業、実習等の場面を通じて取り組んだ。</p> <p>③永久サポート大学 コロナ禍の状況改善により、少しずつ卒後研修に協力した。</p> <p>④教育力日本一 国家試験合格という4学科共通の目標達成のために、各学科が総力を挙げて取り組んでいる。</p>		<p>①国際化に対応した地球市民の育成 現実的には通常授業の中で英語の情報を付加することは難しく達成できなかった。</p> <p>②ストレス耐性を持った人材の育成 学部の特徴から学外での臨地・臨床実習科目を踏まえてストレス耐性を培う教育を実施している。各学科ともストレス耐性科目を設けており、今後も学生に合わせた対応を検討する。また学年を超えた学生間の縦の関係を促すなかでコミュニケーション能力を高め、学生生活や学年進行に伴う不安軽減につながるような機会を設けた。</p> <p>③永久サポート大学 職能団体および関係機関との協力・連携の下、卒業生を含めたりカレント教育の実施を継続する。また学部教育の中で、卒業生に教育に携わってもらう機会を設けている学科もあった。</p> <p>④教育力日本一 基礎学力テスト、アセスメントテストの結果から学生の状況を把握し、教育内容を検討するための分析を継続的に実施した。学生間の学修を促すために1~4年までを一貫したグループとクラスアドバイザーが担当し、積極的なグループ学習を支援する体制づくりに着手した学科もある。</p>		<p>定員充足率</p> <p>理学療法学科100% 作業療法学科 70% 臨床検査学科 59% 看護学科 112% 保健医療技術学部全体 89.0%</p> <p>志願者数 947人 合格者数 504人 入学者数 267人 定員充足率 89%</p>

2023年度 保健医療技術学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>5) B'Vision 2024に向けての取り組み</p> <p>①国際化に対応した地球市民の育成するために、通常授業の中で英語の情報を付加する。</p> <p>②ストレス耐性を持った人材の育成のために、協同学習を推進する。</p> <p>③「永久サポート大学」を推進するために、卒後研修に協力する。</p> <p>④「教育力日本一」を推進するために、学生との対話を促進する。</p>